

あぜみち

先日、三十年前の「さくらえび漁」のビデオを見ました。私がこの由比町に嫁ぐ以前の映像です。そこに写っていた海は工場が流すヘド口と汚水で茶色になっていました。海は産業廃棄物の捨て場だったのです。それを行政も工場も当たり前の事としていました。海の汚染はどうしようもないほど進み、実際問題として桜えび漁は落ち込む一方でした。このままではダメだ。桜えびが全滅してしまう。海が死んでしまう。漁師達は立ち上がりました。戦いました。

そして今、海はどうなっているのでしょうか。ビニールや発泡スチロールのゴミがプラスチック浮かび、海水は合成洗剤によって汚染されつつあります。これらは工場の責任ではありません。私達一人一人の責任です。ゴミは決められた方法で、決められた場所に出す。なおかつなるべくゴミを出さない、という当たり前の約束を守りたいものです。

合成洗剤の汚染は直接目には見えませんが、しかし確実に広がっています。もう一度なぜダメなのか考えてみて下さい。合成洗剤を使った実験では、魚はえらの細胞を破壊され呼吸できなくなり死んでしまいました。水を浄化する働きを持つバクテリアやイト

ミミズなどの微生物は活性を失い、本来自然が持っている水の浄化作用が弱まり、海や川の汚染はどんどん進んでいきます。人体においては手荒れや湿疹などを引き起こし、内臓障害や精子の破壊も証明されています。

においが良い、泡がモコモコたつ、油をさつと落とす、という洗剤が良い洗剤だとだれが決めたのでしょうか。既製の概念を捨て、意識を変えて、この合成洗剤汚染問題に取り組んでいかなければなりません。先人達が守った海を守り続けていくのは、今の私達の使命です。

おいしい桜えびを子供や孫に、これから生まれてくる未来の子供達に、ずっと食べさせてあげたい。

(静岡県由比町 望月とし子 漁業)